

松籟閣（旧平澤家住宅）

朝日酒造の創立者である平澤與之助（生 1885 年）の旧住宅は 1934 年に完成し、伝統的な日本の建築とアール・デコ調の要素が巧みに組み合わせられています。「松籟閣」という詩的な建物の名前は、「松のそよ風の音の閣」と訳すことができます。朝日酒造本社が増築されることになったため、松籟閣は 2002 年に現在の場所に移転されました。貴重な建物を保存するため、解体・再組立を行わずに丸ごと移転されました。2004 年の地震で甚大な被害を受けましたが、朝日酒造の資金援助により元の壮麗な姿を取り戻しました。

松籟閣は国指定重要文化財です。訪問者は、4 月から 11 月までの月曜日、水曜日、金曜日、土曜日に住宅の多くの部屋と周囲の庭園を散策できます。営業時間は午前 11 時から午後 3 時までです。入場は無料です。

住宅のツアー

かつて松籟閣に平澤家を訪ねる客は、切妻屋根と大きな車寄せのある正玄関から入りました。正玄関の脇にある鐘形の花頭窓には、住宅の名前にちなんで松葉文様が施されています。現在、訪問者は横からの入り口を使用し、磨かれたケヤキの長い一枚板で作られた床の廊下を通ります。床板の節目や傷みは、瓢箪や山などのモチーフをかたどった木の破片を使って、巧みに隠されています。

小座敷を通り、正玄関に入ってすぐのところに、「松籟の間」という応接室があります。その広い部屋には高い格天井があり、戸棚には鳥や花の絵が描かれ、床の間にはヤシの木の柱が使われ、欄間には鷺や梟の姿が彫られています。夏には襖がすだれに変わり、昔の豪華な邸宅を彷彿とさせます。松籟の間の隣には仏間があり、大きな仏壇とその上に神棚が設置されています。仏壇は特に感動的で、精巧な彫刻が施された金属製の錠前と、季節の鳥や花を描いた金と螺鈿を利用した複雑な漆塗りのパネルが備わっています。

松籟の間の後ろには、寄木細工の床と庭を望む大きなガラス窓が備わる洋式のダイニングルームがあります。廊下の先には、当時、日本で特に流行していたアール・デコの要素を取り入れた洋式の寝室があります。寝室と廊下を隔てる壁には、カラフルな幾何学模様の丸いステンドグラスの窓があり、隣接する書斎へのドアは、モザイクガラスのタイルによって細長くストライプの形状が装飾されています。「朝日の間」と呼ばれるこの書斎は、当主の私室としての役割を果たした日本風の伝統的な空間です。床の間の柱には希少な木材タガヤサンを使用し、欄間の格子は伝統的な吉祥文様が表現され、天井の縁には繊細に編まれた網代をあしらうなど、他にも多くの意匠が部屋の装飾のために使用されています。

松籟閣の特に注目すべき部分は、東側に追加されたレンガと漆喰の洋式の応接間です。天井は 4 灯のシャンデリアの周りに古典的な漆喰レリーフで装飾され、壁に濃い色の花柄の壁紙が貼られ、奥には暖炉があり、両側にはスタンドガラスの窓が 2 つあります。この部屋は主に洋風のデザインですが、暖炉の上には 20 世紀の有名な画家、福田豊四郎（1904 年～1970 年）の日本画「暮沼」が飾られています。

他にも子供部屋やかつて女主が使用していた寝室、和式のダイニングルーム、広い多目的室などがあります。

庭園

松籟閣は緑に囲まれ、庭園には松と楓がそれぞれ約 100 本植えられています。近年、庭園の一部に追加や改修が行われましたが、西側は 1930 年代に邸宅が建てられた当時の姿をそのまま残しています。庭園の古い部分には、三方を松の木で囲われた枯池があります。枯池は、大きな岩、石灯籠、苔むした橋などで装飾されており、あたかも水を張るための普通の池であるかのように見えますが、もともと水を貯めることを目的としたものではありません。

中庭には小さな池、装飾的な水鉢、大きな石灯籠があります。この庭園はそれを囲む 3 つの回廊や朝日の間、松籟の間、洋式のダイニングルームから眺めることができます。